

## 施策5-1 土地の有効利用

### あるべき姿

各地区の特性を踏まえたバランスのとれた土地の有効活用が行われています。

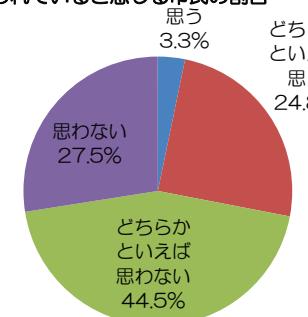
### 成果指標

指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)	説明
各地区の特性を踏まえた開発・にぎわいづくりなどバランスのとれた土地活用(整備)が行われていると感じる市民の割合	28.0% (平成27年度)	40%	まちづくりアンケートで「阿賀野市では、各地区特性を踏まえ、まちなみの保全と開発・にぎわいづくりのバランスがとれた土地活用(整備)がされていると思いますか。」の問い合わせに対し、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した市民の割合です。

### 施策をとりまく環境変化と課題／施策の基本方針

- 国道49号阿賀野バイパス沿線に「道の駅」を設置し、産業や観光の活性化及び都市農村の交流拠点と、交通アクセスの利点を活かした防災拠点の形成を行います。
- 人口減少や高齢化が進む中、地域の活力を維持し、水原駅前市街地の医療や福祉、商業等の生活機能を持続させるため、街路整備によるコンパクトなまちづくりを進めます。
- 自然環境や景観と調和がとれたまちづくりが求められています。地域の自然環境の保全に留意しながら、適正な開発と良好な居住環境の形成を推進します。
- 国道49号阿賀野バイパスの整備により設置が予定されているインターチェンジ付近の市街地に連坦する区域において、土地の有効利用の促進を図ります。
- 子育て世代及び多世代の定住や転入を促進するため、住宅の取得やリフォームの支援と空き家の有効活用により住環境の向上を図ります。
- 市民の憩いの場として、また、高齢者の健康づくりや子育て、観光など多面的な活用もできる公園の整備を推進するとともに、維持管理の充実を図ります。

各地区の特性を踏まえた開発・にぎわいづくりなどバランスのとれた土地活用(整備)が行われていると感じる市民の割合



出典：まちづくりアンケート

### 基本事業

基本事業名	あるべき姿	指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)
1 新たな生活・交流の拠点形成	市民生活の利便性の向上が図られ、市内外の人との交流が盛んになる拠点づくりが進められています。	拠点形成への事業化が決定した箇所数	0か所	2か所
2 適正な開発の促進	農業や商工業等の産業振興と住環境の向上等の産業今后の人口動向等を踏まえた適正な開発が行われています。	転入者の住宅取得件数 (平成28~32年度の累計) 商業工業施設の開発面積 (平成28~32年度の累計)	21件 Oha	150件 増やす
3 土地・家屋の適正利用と有効活用	適正に土地が利用されています。 有効に家屋が活用されています。	管理不全な空き家数	657件	309件
4 公園の維持管理と整備充実	公園の維持管理が十分に行われ、安全かつ快適に利用しています。	憩の場としての公園の満足度	61.5% (平成27年度)	65%

## 施策5-2 道路環境の充実

### あるべき姿

市内外への安全かつ円滑な移動が可能となっています。

### 成果指標

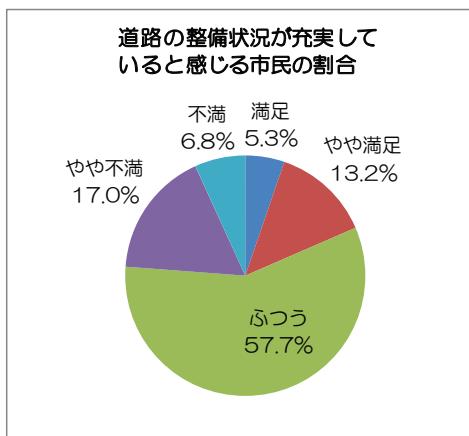
指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)	説明
道路の整備状況が充実していると感じる市民の割合	76.2% (平成27年度)	80%	まちづくりアンケートで「市内の生活道路整備状況や市外の道路整備状況について満足していますか。」の問い合わせに対し、「満足」「やや満足」「ふつう」と回答した市民の割合です。

### 施策をとりまく環境変化と課題／施策の基本方針

- 国道49号阿賀野バイパスは、市街地の渋滞緩和に加え、地域産業と観光の活性化に大きな期待が寄せられています。人口減少・少子高齢化社会において、地域の活力を維持・向上させるため、市街地および地域全体への広域道路ネットワークを国県道と連携して整備を行います。
- 生活道路に求められる整備水準は、時代とともに高まっています。道路の機能を維持し、側溝や拡幅などの改良により、市民の生活基盤の充実と安全を図ります。
- 冬期間の交通確保は、市民の生活と経済活動に欠かせない課題となっています。降雪時には機械除雪のほか、除雪困難な住宅地では消雪パイプの整備により、市民の生活と安全安心を図ります。
- 高度成長期に建設された、道路や橋りょうなどの社会基盤の老朽化が進んでいます。市民が安全で快適に利用できるよう、計画的な施設更新や補修等を進め安全性を高めます。

### 基本事業

基本事業名	あるべき姿	指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)
1 市外へのアクセス向上	広域道路ネットワークが整備され、安全かつ円滑に市外へ移動しています。	新潟東部産業団地から新潟亀田ICまでの移動時間	31分	24分
2 生活道路の維持管理と整備充実	生活道路の十分な維持管理や改良により、安全かつ円滑に市内を移動しています。	市内の車での移動に対する満足度	72.3% (平成27年度)	75%
3 効率的な除排雪の推進	冬期間の道路交通が確保され、安全かつ円滑に市内を移動しています。	除排雪に満足している市民の割合	61.4% (平成27年度)	65%
4 橋りょうの長寿命化	橋りょうを長持ちさせるため、適切な維持・修繕により、維持・更新費用が最小化されています。	橋りょうの長寿命化率	0%	100%



出典：まちづくりアンケート

## 施策5-3 公共交通の充実

### あるべき姿

公共交通が充実し、市民生活における移動の利便性が向上しています。

### 成果指標

指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)	説明
公共交通機関の満足度	57.0% (平成27年度)	65%	まちづくりアンケートで「市内の移動に関する公共交通（バス等）、新潟市や新発田市等の市外への移動に関する公共交通（電車、バス等）について満足していますか。」の問い合わせに対し、「満足」「どちらかといえば満足」「ふつう」と回答した市民の割合です。

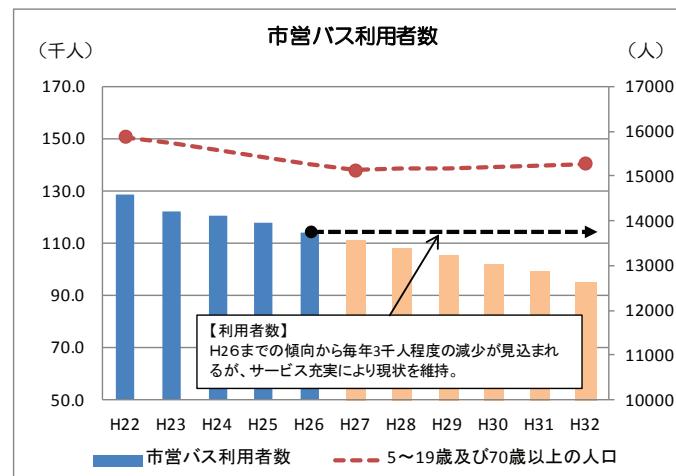
### 施策をとりまく環境変化と課題／施策の基本方針

- 各集落と市役所、各支所、病院等をつなぐ交通機関として、市域全域において運行（11路線）している市営バスの利用者が年々減少しています。今後、人口減少や少子高齢化の進行により、利用者の一層の減少が予測されます。
- 利用者の減少に伴って、公共交通サービスの提供が低下すれば、日常生活において移動に困る市民がさらに増えることとなります。こうした事態を避けるため、市営バスの運行を継続するとともに、地域の実情に応じた、市民が利用しやすく費用対効果も高い公共交通体系への見直しを継続的に行います。
- 通勤・通学者の約4割が市外へ移動をしている現状を踏まえ、公共交通機関による市外への移動の利便性の向上を図ります。

出典：総務課調べ  
国立社会保障・人口問題研究所

### 基本事業

基本事業名	あるべき姿	指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)
1 市内の交通手段の確保	市内の交通手段が確保され、利用しています。	市営バスの年間総利用者数	114,156人	現状を維持します。
		市内移動の公共交通機関の満足度	67.3% (平成27年度)	70%
2 市外への交通手段の確保	市外への交通手段が確保され、利用者の利便性が向上しています。	市外移動の公共交通機関の満足度	46.6% (平成27年度)	60%
		水原駅の1日平均乗車数	815人	現状を維持します。



## 施策5-4 上水道の安定供給

### あるべき姿

安全な水道水が安定的に供給されています。

### 成果指標

指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)	説明
安全・安心な水道水が供給されていると感じる市民の割合	96.9%	98%	まちづくりアンケートで「安全・安心な水道水の供給について満足度していますか。」の問い合わせに対し、「満足」「やや満足」「ふつう」と回答した市民の割合です。
大規模断水事故件数	0件	0件	100世帯以上におよぶ大規模断水事故の件数です。

### 施策をとりまく環境変化と課題／施策の基本方針

- 大きな地震が頻発しています。東日本大震災における地震動レベル2でも水道水が安定的に供給できるよう、施設・管路の耐震化を計画的に行います。
- 近年の異常気象などで原水の水質が一時的に悪化するケースが増えています。万全な維持管理により、浄水施設の機能不全を防ぎ、安全な水道水が供給できる体制を維持していきます。
- 人口減少や節水機器の普及などによる水道使用量の減少に伴い、水道料金収入の減少が続いている。支出の抑制や更新工事の厳選などにより、健全経営の維持を図ります。



### 基本事業

基本事業名	あるべき姿	指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)
1 安定供給の推進	災害時でも水道水が安定的に供給されています。	管路の耐震化率	7.2%	11.2%
		浄水施設の耐震化率	70.5%	78.7%
2 安全供給の推進	災害等により原水水質が悪化しても、安全でおいしい水道水が供給されています。	浄水施設の機能不全件数	0件	0件
		水道水の水質検査において基準を上回った件数	0件	0件
3 健全経営の推進	水道事業の経営が健全に行われています。	有収率	84.8%	88.0%
		経常収支比率（一般会計基準外繰入金除く）	105.7%	102.9%

### 用語解説

- 地震動レベル2:** 地震動は、地震によって発生する揺れのこと。構造物の耐震設計を行うときに、耐えられる地震の大きさをレベル1とレベル2の大まかな2段階に分けます。うち、レベル2は、その構造物が受けるであろう過去、将来にわたって最強と考えられる地震動で、想定しうる範囲内での最大規模の地震を指します。
- 有収率 :** 全体の給水量のうち料金徴収の対象となった水量の割合
- 経常収支比率 :** 料金収入等の収益で維持管理費等の費用をどれくらい賄っているかの収益性を表す数値  
(この数値が100%以上の場合は黒字、100%未満の場合は赤字となります。)

## 施策5-5 汚水処理の推進

### あるべき姿

公共用海域の水質の保全のため、適正に汚水処理する世帯が増えていきます。

### 成果指標

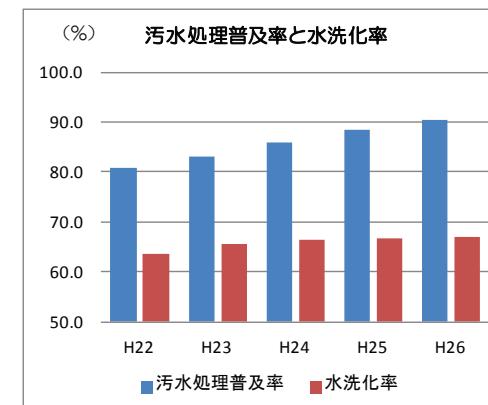
指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)	説明
汚水処理人口普及率	90.5%	96.0%	下水道及び集落排水施設を利用できる人口と合併処理浄化槽を利用している人口を加えた値を、市の総人口で除して算定する指標です。

### 施策をとりまく環境変化と課題／施策の基本方針

- 汚水処理について、市全域の均衡な整備と早期の完了が求められています。整備の遅れている水原地区、京ヶ瀬地区、笠神地区について順次整備を進めます。また、効率的な汚水処理を推進するため、地域の実情に応じた手法（下水道、集落排水、合併処理浄化槽）により整備を図ります。
- 汚水処理は「24時間、365日働き続ける」止める事のできないライフラインです。施設の適正な維持管理と既存施設を有効に活用した長寿命化対策により、予防保全に努めます。
- 平成26年8月、地方公営企業化へのロードマップが国から示されたことに伴い、地方公営企業化を図ります（平成30年度移行予定）。下水道事業の経営状況を明確化することにより、安定した収入の確保と計画的な施設の更新や整備を進め、下水道事業の経営健全化を図ります。

### 基本事業

基本事業名	あるべき姿	指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)
1 汚水処理施設の整備と接続の促進	汚水処理の整備が進み、接続している世帯が増えています。	水洗化率	67.2%	73.0%
		単独浄化槽設置基数	3,061 基	1,750 基
2 汚水処理施設の維持管理の推進	安全・安心な汚水処理が継続されています。	浄化センター・管路施設の不具合・トラブル件数	0 件	0 件
		経常収支比率	地方公営企業法適用後に取得します。	現状値取得後に設定します。
3 持続可能な下水道経営の推進	下水道事業の経営が健全に行われています。	一般会計からの法定外繰出金	地方公営企業法適用後に取得します。	現状値取得後に設定します。
		経常収支比率	地方公営企業法適用後に取得します。	現状値取得後に設定します。



出典：上下水道局調べ

### 用語解説

**汚水処理施設：** 下水道、農業集落排水等の処理施設、及び合併処理浄化槽の総称

**経常収支比率：** 料金収入等の収益で維持管理費等の費用をどれくらい賄っているかの収益性を表す数値  
(この数値が 100%以上の場合は黒字、100%未満の場合は赤字となります。)

**法定外繰出金：** 一般会計繰入金 - 基準内繰入金

## 施策5-6 生活衛生・環境の保全

### あるべき姿

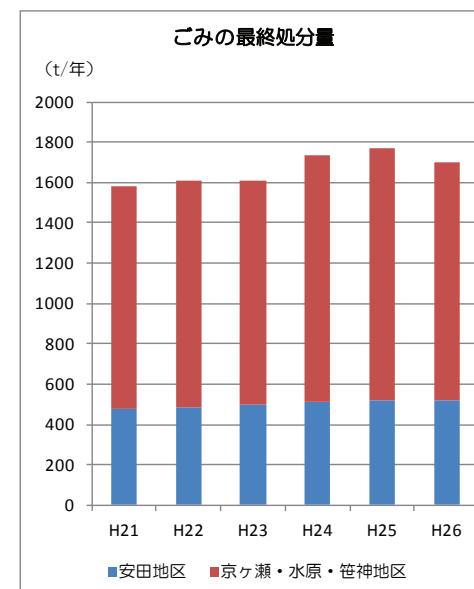
ごみや生活公害の少ないまちになっています。

### 成果指標

指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)	説明
最終処分量	1,701t	1,590t	本市から出るごみが最終処分（埋立て）される重量の比較値です。
生活衛生・環境に関する苦情件数	409 件	360 件	廃棄物の処理や騒音・振動・悪臭に伴う生活公害に関する苦情・相談件数の比較値です。

### 施策をとりまく環境変化と課題／施策の基本方針

- ごみの減量化・資源化により、最終処分量を減らすことが必要です。そのため、3Rを普及・啓発し、ごみの適正処理を進め、廃棄物の循環型社会の形成に寄与します。
- ごみ焼却場は稼働開始後、阿賀野市環境センターは22年、五泉地域衛生施設組合ごみ焼却場は30年が経過し、老朽化が進んでいます。このため、新たなごみ処理施設の整備について検討を進めています。
- 騒音・振動・悪臭等から生活環境や市民の健康を保護するため、必要な規制や指導を行います。
- 廃棄物の不法投棄や野焼きから生活環境を保全するため、未然防止の啓発や対策を強化します。
- 衛生害虫の発生・出没は生活面や健康面での悪影響が心配されます。今後とも、関係機関や自治会との協働により、適切な防除を推進します。

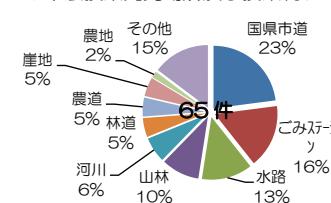


出典：阿賀野市一般廃棄物処理基本計画  
(平成27年3月)

### 基本事業

基本事業名	あるべき姿	指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)
1 3Rの推進	廃棄物の発生を抑制し、適正に処理しています。	市民1人当たりのごみの年間排出量 [リデュース]	273 kg	265 kg
		中古品・フリーマーケット・詰替品等で積極的に再利用している市民の割合 [リユース]	7.8% (平成27年度)	10%
		ごみの資源化率 [リサイクル]	19%	20%
2 生活衛生・環境の確保	市民・事業所・行政(市)の連携により、生活衛生・環境が確保されています。	公害(騒音・振動・悪臭・水質汚濁)苦情件数	26件	16件
		空き地の管理及び害虫駆除に関する苦情件数	22件	15件
		犬・猫の飼育マナーに関する苦情件数	14件	14件
3 適正なごみ処理の推進	違法行為や不法投棄がなく、ルールに則ってごみが排出されています。	不法投棄の発生確認件数	65件	33件
		野焼きの苦情件数	14件	8件
		分別不適合率(焼却量に対する不燃物の含有率)	0.7%	0.7%
4 ごみ処理体制の適正化	適正かつ効率的なごみ処理体制が確立されています。	市民1人当たりのごみの処理コスト	13,346円	10,700円
		ごみ処理における事故件数	0件	0件

#### ●不法投棄発見場所及び投棄物(H26)



投棄物	数 量	投棄物	数 量	投棄物	数 量
テレビ	38 台	廃タイヤ	29 本	家庭ごみ	265 kg
冷蔵庫	2 台	ソファ	4 脚	ガラスくず	215 kg
洗濯機	1 台	バッテリー	5 個	空き缶・瓶	30 kg
エアコン	2 台	消火器	3 本	廃プラ類	270 kg
バイク	1 台	家具類	184 kg	建築廃材	1,425 kg

#### 用語解説

**3R** : 大量生産・大量消費・大量廃棄のライフスタイルや経済活動を改め、環境への負荷を低減させる社会の追求(スリーアール)に向けての取組みであり、「ごみの発生抑制」Reduce(リデュース)、「繰り替えしの利用」Reuse(リユース)、「ごみの資源化」Recycle(リサイクル)の3つのRにより構成した造語

**循環型社会** : 限りある資源を効率的に利用したり再生産を行うことで持続可能なかたちで循環利用していく社会の姿

## 施策5-7 地球環境・自然環境の保全

### あるべき姿

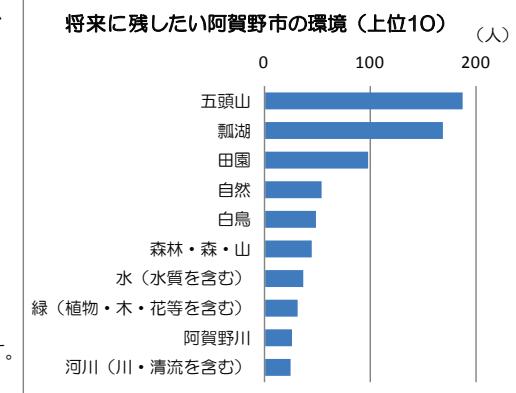
自然を守り、地球にやさしい暮らしや事業を推進しています。

### 成果指標

指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)	説明
自然環境に満足している市民の割合	93.5%	95%	まちづくりアンケートで「阿賀野市の自然環境に満足していますか。」の問い合わせに対し、「満足」「やや満足」「ふつう」と回答した市民の割合です。
地球にやさしい取組みの平均実践項目数	5.75 項目	7項目	まちづくりアンケートで「地球環境を守るために、どのような地球にやさしい取組みをしていますか。」の問い合わせに対し、市民が実践していると回答した項目数の平均です。

### 施策をとりまく環境変化と課題／施策の基本方針

- 大気や水質、土壤・地下水は概ね基準値内となっています。良好で快適な生活環境の形成に向けて、監視・観測体制の維持・充実を図り、環境汚染の未然防止を図ります。
- 省資源・省エネルギーなどの環境保全行動が、市民の間で徐々に広がっています。普及活動や環境配慮指針の提供により、市民のエコライフ（環境にやさしい暮らし）やエコアクション（環境保全行動）への取組を促進します。
- 世界規模で地球温暖化が進んでいます。地球温暖化抑制に貢献するため、太陽光などの自然エネルギーや再生可能エネルギーの利用促進を図ります。
- 環境の保全を図るため、生活行動や事業活動が環境全体に及ぼす影響について理解が深まるよう各種の情報提供を行います。



出典：市民アンケート（平成24年）

### 基本事業

基本事業名	あるべき姿	指標名	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)
1 大気・水質の保全	きれいな大気・水質環境となっています。	大気の基準値を上回った件数	0件	0件
		河川等の水質基準を上回った件数	0件	0件
2 自然資源の保全・活用	水辺環境、緑環境、生き物の生息環境が守られ、活用されています。	自然環境保全活動に参加している市民の割合	2.6% (平成27年度)	3%
		森林間伐（育林）面積	8.65ha	9.00ha
3 地球環境の保全	地球温暖化への対応、再生可能エネルギー等の利用が進んでいます。	再生可能エネルギーによる発電総出力	19MW	31MW
		市の施設における温室効果ガス（CO <sub>2</sub> ）排出量	10.192t/CO <sub>2</sub>	10.000t/CO <sub>2</sub>

阿賀野の環境資源



瓢湖の白鳥



田園風景



五頭山の山並み



### 用語解説

再生可能エネルギー：自然の営みから半永久的に得られ、継続して利用でき、地球環境への負荷が少ないエネルギー（中小水力・地熱・太陽光・太陽熱・風力・バイオマス等）